

平成 19 年度第 2 回学術情報ネットワーク運営・連携本部会議議事概要

1. 日 時 平成 19 年 9 月 28 日 (金) 10 : 30 ~ 12 : 30

2. 場 所 国立情報学研究所 12 階会議室

4. 議事内容

(1)学術情報ネットワーク運営・連携本部委員の交代等について

坂内本部長から、資料 2 に基づき、学術情報ネットワーク運営・連携本部委員の交代について報告があった。

- ・大阪大学サイバーメディアセンター 下條真司教授から竹村治雄教授

(2)平成 20 年度整備計画について

事務局から、資料 3 に基づき、平成 20 年度整備計画について説明があり了承された。これに関連して次のような意見があった。

- ・米国向け回線について、10Gbps×2 本とのことだが、コモディティのトラフィックのためにバックアップしている、という意味なら少し違うのではないか。東海岸または西海岸のいずれか 1 本分の予算を使って日本国内 ISP のトランジットサービスを買う、という案も考えられるのではないか。

➢ 現在日米間のトラフィックの多くが、米国でトランジットする ISP に流れるコモディティのトラフィックであるので、ご指摘の案についてはある程度の認識はしていたものの、金銭的な部分について詳細に検討する段階には至っていなかった。米国向けの回線を 1 本化した場合に、研究用トラフィックとコモディティトラフィックが十分な品質とスループットを確保できるかどうか、今後検討していきたい。

- ・米国側の ISP はどこか。

➢ 東海岸、西海岸ともに LEVEL3 である。

(3)平成 20 年度概算要求について

事務局から、資料 4 に基づき、平成 20 年度概算要求事項について報告があった。これに関連して、坂内本部長から、ITER や次世代スーパーコンピュータ等の大型プロジェクトについては、プロジェクト経費の中にネットワーク等のインフラ経費を見込んだ予算のプランニングをお願いしたい旨の発言があった。

(4)SINET3 運用状況報告

事務局から、資料 5 に基づき、現在まで概ね順調に運用していること、また切替作業では各機関の多大なご協力に改めて感謝するとともに、今後もルータのソフトウェアのバージョンアップ等の作業を予定しているので、引き続きご協力のお願いと報告があった。

(5) SINET 利用推進体制の整備について

事務局から、資料 6 に基づき、SINET 利用推進体制について説明があった。これについて次の意見があった。

- HEPnet-J に属する研究室でネットワークのトラブル等があった場合は、これまで KEK の計算科学センターで技術支援を行ってきたが、このような各機関共通の利用推進体制を持つことはとてもよい枠組みである。
- 大学に 40 名ほど情報関係の技術職員がいるが、大学内では部局を横断したキャリアパスデザインが困難となっている。研究者および技術職員の人材育成に向けたアクションプランを検討して頂ければありがたい。
- 文科省では、研究環境基盤部会において、学術研究の推進体制のあり方、情報処理センターのあり方、SINET のあり方について審議を始めたところである。来春にはなんらかの結論を出したいと考えている。
- 一般のインターネット利用者向けだけでなく、先端的な研究者コミュニティのための利用推進も必要。

(6) ネットワーク作業部会報告

安達委員から、資料 7 に基づき、ネットワーク作業部会の活動報告があった。VPN の利用開始申請について、明らかに身元がはっきりしたものについては、ネットワーク作業部会に一任することで了承された。これに関連して、次の意見があった。

- VPN の民間利用はどう考えているか。
 - 大学との共同研究であれば、現在の SINET 加入規程の範囲内で利用可能であるが、それ以外の利用については今後の検討課題である。
- サービス利用のアカウントビリティとして、成果の公開が必要ではないか。

(7) 認証作業部会報告

岡部委員から、資料 8 に基づき、認証作業部会の活動報告があった。サーバ証明書の発行条件として「SINET の加入機関であること」としているため、発行のために SINET を利用しないが加入する、という場合もある、との説明があった。

(8) グリッド作業部会報告

青柳委員から、資料 9 に基づき、グリッド作業部会の活動報告があった。これについて、次の意見があった。

- β 版以降の継続的な管理体制や、プロジェクトから運用フェーズに向けての今後の展開はどのように考えているのか。
 - まず、CSI の一環として GOC (グリッド・オペレーションセンター) を平成 20 年度から立ち上げ、ソフトウェアの配布と保守体制を確立しユーザ支援を行っていく予定である。これまで研究と事業が混在していたところを切

り離そう、というところである。

- ・ 想定する利用者は、学術コミュニティか。
 - 当初は、全国情報基盤センター等から始めていく。他については今後進めていきたい。
- ・ 高エネルギーの分野では、実験で発生する膨大なデータをグリッドでつないで世界的に解析を進めようという方向に向かっているが、我々としては EGEE ではなく NAREGI を使うことで、このソフトウェアの存在価値を高めていきたい。

(9) 国立大学法人等における情報セキュリティポリシー策定作業部会報告

曾根委員から、資料 10 に基づき、情報セキュリティポリシー策定作業部会の活動報告があった。今後の対応として、本策定作業部会を 10 月末の設置期限で解散し、大学からの要望への対応や普及啓蒙活動のために、新たに「情報セキュリティポリシー検討作業部会（仮称）」を設置することです承された。

(10) その他

1) TEIN2/3 関係報告

NII の山田教授から、資料 11 に基づき、TEIN2/3 の現況について報告があった。フォローアップとして、坂内本部長から、TEIN3 については、NII のミッションの範囲内で、誠実に対応していきたい旨発言があった。

2) 重点計画 2007

坂内本部長から、資料 12 に基づき、今後国際連携の枠組みの中で、NICT と連携・協力する旨の説明があった。

－ 以上 －